

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	旅行代理店 （経営者）	お客様の様子	・海外向けの団体旅行は依然不振であるが、個人旅行を中心に戻ってきており、SARSの影響も少なくなってきた。
	やや良く なっている	スーパー（店 長）	販売量の動き	・4月は、総額表示移行へのインパクトのせいか、買上点数が上がらなかったが、5月に入り、1人当たりの買上点数もまずまずの件数になり、上向いて
			スーパー（総 務担当）	販売量の動き
		コンビニ（エ リア担当）	単価の動き	・客数は今月に入り前年比95%と低調だが、客単価が前年比102.4%と好調に推移しており、1人当たりの購買数も増えてきている。
		コンビニ（エ リア担当）	それ以外	・様々な業種で、開店が目立つ。
		衣料品専門店 （地域プロッ ク長）	お客様の様子	・品ぞろえが良ければ、客はまとめ買いしてくれる。高額商品も売れている。
		家電量販店 （副店長）	来客数の動き	・来店客数、売上金額共にわずかながら前年比増となった。3月、4月と連続して大きく下回っていただけに、やっと明るい兆しが見えてきたという感がある。ただ、不透明感はぬぐいきれない状況であることに変わりはない。
		住関連専門店 （営業担当）	単価の動き	・単価上昇以上に、客の購買するアイテム数も徐々に増加しており、新しい物に対する要望が、非常に強くなってきている。
		その他専門店 [カメラ] （地域プロッ ク長）	販売量の動き	・全社的に見た場合、昨年度比で販売量に若干の上向きの兆しが見える。ただし、店ごとの状況の違いがあるため、まだまだ手放して喜べる状態ではな
		タクシー運 転手	販売量の動き	・売上全体が昨年より1割から2割減少している。 ・増車の影響で利用回数や客単価が減少している。
		通信会社（社 員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量や来店客数ともに上向いているが、全体的には依然として悪いと思われる。
	美容室（経営 者）	お客様の様子	・客から「景気が悪い」という声を聞かなくなった。	
	変わらない	一般小売店 [茶]（経営 者）	販売量の動き	・新茶が例年より早く出荷された影響で、先月に売上がシフトした。先月今月をならしてみると、前年とあまり変わらない。
		百貨店（販売 促進担当）	お客様の様子	・高額商品を中心に外商の売上は回復しているが、店頭売上が主力商品を中心に苦戦し、全体的には変わらない。
		百貨店（販売 促進担当）	販売量の動き	・ブランド雑貨は売れているが、衣料品は厳しい。 ・母の日における売上目標は達成することができたが、それ以降は厳しい状況である。
		百貨店（売場 担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークまでは堅調に推移したが、中旬から下旬にかけてかなり来店客数が減少し、月末に行った売出しなども、来店客はあったが、単価が非常に低く全体的な売上は前年を大きく下回った。
		百貨店（営業 担当）	お客様の様子	・来店客数は減少傾向にあるものの、買上客数は変わらなかったため、売上高は変わらなかった。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・前月との比較では、少しずつ買上点数が戻りつつあるが、依然として、買上点数の落ち込みによる客単価の落ち込みが大きい。
		コンビニ（エ リア担当）	販売量の動き	・酒の免許緩和による異業種参入、及び今まで酒類を扱っていなかったコンビニによる取扱開始から、酒類と惣菜の売上低下が続いているが、大きな変化には至ってない。
衣料品専門店 （店長）		単価の動き	・ゴールデンウィーク過ぎまでは、帰省客もあり、全体的に好調であったが、その後天候の変化も激しく、単価・客数ともに鈍化した。	

乗用車販売店 (総務担当)	単価の動き	・前年同月と比べ、受注関係は変わらないが、小型車や軽乗用車の売上にシフトしており、全体の売上に結び付かない。	
乗用車販売店 (販売担当)	単価の動き	・新車の受注台数は前年並みだが、車種構成は高額車種が減少、単価の安い車種が増加し、値引き要求も非常に厳しくなっている。	
自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・例年、5月連休明けは販売量が伸びない時期ではあるが、今年は例年に比べて更に低調に推移している。景況感は確実に上向いてきているが、嗜好性の高いカーオーディオ商品での売上の回復が遅れている。	
一般レストラン(店長)	来客数の動き	・ピヤガーデンが始まるこの時期だが、前年に比べ集客が悪い。生ビールも総額表示が義務付けられたので、実質値下げを行ったが効果がない。	
観光型ホテル(スタッフ)	単価の動き	・ここ3年間で、最低の消費単価となり、引き続き悪い状態が続いている。	
都市型ホテル(スタッフ)	お客様の様子	・インターネットからの宿泊予約が増加しているが、その分、客単価が減少している。	
都市型ホテル(従業員)	来客数の動き	・企画商品などの予約が好調と思われたが、その後の伸びが鈍化し、平日の落ち込みも3か月前の傾向に戻ってしまった。	
旅行代理店(営業担当)	単価の動き	・高額商品より、値ごろ感のある商品が、引き続き売れている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・鳥取では、弱電を主に製造業が良くなっていると、お客様からよく聞くようになった。しかし、マイナスの業界もあることから、全体としては変わらず。	
通信会社(経営者)	お客様の様子	・加入契約数がここ数か月の実績から低下したままかつ解約も増加して純増加数が低迷したまま推移しており、増加の兆しがみえない。	
その他レジャー施設 [温泉センター](営業)	来客数の動き	・ゴールデンウィークは雨天が多かったことや連休日も多かったため、日帰り温泉部門もホテル部門も動員数で前年を大幅に上回ったが、平日についてはほぼ前年並みの維持に終わり、総体的には変わらな	
設計事務所(経営者)	来客数の動き	・客の動きが緩慢であり、全体的には足踏み状態である。	
設計事務所(経営者)	販売量の動き	・建築関係では、仕事の絶対量が少ない状況が依然続いている。	
設計事務所(職員)	販売量の動き	・個人住宅向けマンションと一戸建住宅の新築が引き続き多く、売行きも好調である。	
住宅販売会社(経理担当)	販売量の動き	・これまで販売が進まなかった既存物件が、値引きの広告チラシを出したところ新規の来場者が増加し、前月比で契約が4件増加した。	
住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・来場者は、全体的に停滞している。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・来客数、販売量、売上額が総体的に悪い。 ・山間部、地元とも農繁期に入っており、来客数が厳しい。
	商店街(代表者)	単価の動き	・ベビー子供服小売業にとっては、近郊に大型店が次々出店し、大型店のシェアが高まるにつれ、中小小売業の売上減少に歯止めがかからない状況である。
	百貨店(販売担当)	来客数の動き	・来店客数が減少している。特に午前中のミセスのお客様が少ない。
	スーパー(店長)	単価の動き	・総額表示になって以来2か月、客数は増加するものの売上が前年を割っている。 ・本体価格を税込みにすると、1けた価格帯が上がるのを競合上避けるため、事実上単価の値下げにつながる商品が増えてきている。
	家電量販店(店長)	販売量の動き	・総額表示にて、全体の売上は更に減少している。 ・イベントを実施するが、来店客の増加が販売に結び付かない現状である。
	スナック(経営者)	お客様の様子	・客の来店数が、客の業種にかかわらず、全体的に減少している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・輸送介護の会社の立ち上げにより、タクシーを利用した病院への送り迎えの需要が目に見えて減少した。 ・連休明けという要因でも、タクシー利用者が減少

		タクシー運転手	お客様の様子	・5月前半のゴールデンウィークの不振であった上、後半は農繁期に入り、夜の動きが悪く、売上は横ばい状態である。
	悪くなっている	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・5月は、土日祝日が例年より3日多いため、店売上予算は前年の102%で組んだが、92%で推移している。特に月末になるにつれて、売上がより悪くなっていく傾向である。 ・市内各百貨店の婦人靴売場の売上合計も、都内より10%ほど平均値が下回り、前年の85%で推移している。特に第4週は、主力商品のサンダルが前年の70%と大苦戦しており、例年不振期である梅雨時期をぼうぶつさせるような、唯一のヒット商品がレインブーツであるという、商品の動きである。
		衣料品専門店（販売促進担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークで気温が上がらず、出足をくじかれた。 ・平日の来客数、売上が減少している。 ・依然として夏物の動きが悪い。
企業動向関連	良くなっている	非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・アテネオリンピック特需かもしれないが、電子材料関係は好調である。下期は調整局面かもしれないので稼げるタイミングに稼いでいく。
	やや良くなっている	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上高は昨年比で4月までは増加しており、かつ今後の受注も増加傾向にある。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・自社商品が、国内では春の新商品を中心に好調であり、国外では北米を中心に好調である。
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・新車の販売好調を背景に、生産は高水準を維持している。単価引下げ要請は厳しいが、量産効果で増益基調を確保しており、雇用拡大・設備投資にも積極化の動きがみられる。
変わらない		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・先月から大きな変化はない。社内は全般に高稼働率だが、デフレ圧力に加え物流費・原燃料費の高騰により、利益が上がりにくい状況である。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現況は海外出荷品が好調で株価の上昇に支えられており、国内製品生産や国内消費は一部を除き、あまり変わりがない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・上向きの状況は感じられない。
		建設業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き受注量は増加している。特に、民間工事の注文が増加している。
		建設業（営業担当）	競争相手の様子	・民間工事の発注量は徐々に増加しているが、各社とも受注量確保のため、厳しい金額でも受注せざるをえない状況となっている。
		輸送業（統括）	受注量や販売量の動き	・今まで引き合いがあった仕事有一段落したため、例年並みに推移した。
		通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・法人向け通信の動向は、利用者にとって低コストが魅力のIP系サービスが順調に伸びているが、新規回線獲得はわずかで、既存専用線サービスからのシフト加速等による収入面の目減りをカバーするに至っていない。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・金融機関の貸出状況がやや良くなったが、審査などが厳しい状況になっている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・今月は連休のせいもあるが、思ったほど売上が伸びていないところが多い。また、官公庁関連は、例年なら年度末が終了しても4月、5月に追加発注の売上があるが、今年はあまりなかった。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（支店長）	求人数の動き	・中途採用に加え、新規卒採用を行う企業が増えている。近年しばらく中止していた企業も採用を再開している。

やや良くなっている	人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・企業からの派遣依頼は全国対応の案件が急増しており、地方支店としてはうれしい反面、求職者の不足と就業マインドの低さにより期待に添わないこともありミスマッチは解消されていない。
	新聞社 [求人 広告] (広告 営業担当)	求人数の動き	・新聞求人数が前年比150%以上の出稿状況であり、この状況は当面続く。
	民間職業紹介 機関 (職員)	求人数の動き	・技術者の求人依頼しかなかった企業から間接部門の求人が入るようになった。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・新卒求人の好調が続いている。 ・既卒者の求人も出てきており、求人自身好調である。
変わらない	新聞社 [求人 広告] (担当 者)	周辺企業の様子	・企業によって、良い悪いが非常にはっきりしてきている。 ・メーカーは堅調だが、サービス産業が良くない。また、サービス産業の中でも良い悪いが極端になってきており、全体的な状況がつかみにくくなっている。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・製造、土木など求人倍率の低い業種に求人開拓活動を進めているが、求人は欠員補充にとどまっており、全体的にも、横ばいで推移している。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は、昨年同期と同程度であり、大きく変化していない。
	民間職業紹介 機関 (職員)	採用者数の動き	・売上高経常利益率が6%あるにもかかわらず、経理職等の企業にとっては重要な職種でも、欠員補充は契約社員を充てた。
	学校 [短期大 学] (就職担 当)	求人数の動き	・関東圏からの求人はコンスタントに届いているが、地元や県内からの求人はさっぱりで、それを裏付けるかのように各企業からは、景気の先行き不安を心配する声が聞かれる。一部の業種では景気を持ち直しが感じられるが、かといって地方全体が好況に転ずるような雰囲気は全く感じられない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-